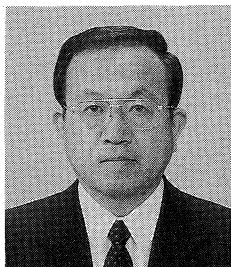


第3回 軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展並びに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 神尾彰彦 代 菅野幹宏）の審査を経て平成13年3月14日（水）開催の第39回理事会において慎重審議の結果、村上 雄君、柳沢 平君、上田雄三君の3名の授賞を決定、(株)軽金属学会第100回春期大会第1日目の5月18日（土）に岡山理科大学において表彰式を挙行了。

受賞者 村上 雄君 帝京科学大学理工学部教授 昭和18年11月20日生（57歳）



受賞理由

村上 雄君の主な研究分野は、金属材料の結晶組織の解析であり、圧延板の結晶組織制御等に対して工学的に有用な論文を発表している。また、学会主催のシンポジウム等における講師として研究分野の解説を行い、軽金属学会40周年を記念して発刊された「アルミニウムの組織と性質」では、集合組織の項を執筆している。学会活動にも長期にわたって積極的に参画しており、1983年より編集委員に就任し、投稿論文の校閲を始めとして、軽金属誌の内容充実に対して多大な貢献をしている。軽金属論文賞等の研究業績に対する各賞の推薦および選考委員としても数多く就任している。また、総務委員会においても17年にわたって活動を続け、学会運営および諸行事の立案と実施等に対して協力している。軽金属学会大会実行委員は延べ13回務めて、大会運営の計画および実行に寄与している。

以上のように、村上 雄君の研究成果は、軽金属学の発展に寄与し、永年の多方面にわたる学会活動は、軽金属学会の運営に対する貢献も極めて顕著であると認め、ここに第3回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 柳沢 平君 広島大学工学部教授 昭和20年3月20日生（55歳）



受賞理由

柳沢 平君は、中国センター長、中国・四国支部長としてだけでなく、評議員も歴任し、長年にわたり支部内の学界および業界の活性化に尽力し、かつ本部、支部の運営発展に貢献した。特に、支部研究会の毎年3回の開催を定着化したこと、旧来の四国センター発案の高専卒業生に対する奨励賞授与を、中国・四国地区の大学学部卒業生、大学院修士にまで枠を広げ、定着化させたことは、大きな業績である。また、第86回春期大会では実行委員長として、大会運営に努力され、同大会を成功裡に導いた。

その他、アルミニウム基複合材料の研究、チタン系材料の放電焼結による材質制御に関して、多大の業績を残している。これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第3回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 上田雄三君 福岡アルミ工業株式会社代表取締役 昭和22年12月17日生（53歳）



受賞理由

上田雄三君は、維持会員会社として九州支部の役員を長年にわたって務め、支部例会では、講演会の開催や工場見学の会場を提供し、学会員勧誘のため、福岡地区の該当企業に啓蒙活動を実施している。技術的には、アルミニウム合金の結晶微細化用母合金（Al-Ti系、Al-Ti-B系）の製造販売、アルミニウム溶湯中の不純物元素Ti、V、Zrを低レベルまで除去できるAl-B系母合金の製造販売、アルカリふっ化物をアルミニウム溶湯に還元置換反応させて合金を製造する技術の確立、高濃度（Al-Fe系、Al-Mn系）母合金の製造販売、アルミニウム溶湯清浄装置の製造販売等を実施しており、これらの技術を通して大学機関でアルミニウム合金の研究に用いられる基礎合金地金を提供助成している。

また、アルミニウムリサイクルの重要性を知ってもらうために、地域の小学生を工場に招き、リサイクルの現場を見て理解してもらう勉強会の開催を実施している。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第3回軽金属学会功労賞を贈る。